

令和5年度

保育協議会だより

No.2



秋田市保育協議会

「今年度の振り返り」と「次年度にむけての抱負」



秋田保育協議会 会長代行

あおぞらなないろ園 園長 上村清正

秋田市保育協議会会員の皆様、日頃より当会の運営及び取り組み等に関しまして、ご理解とご協力を頂けております事に深くお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、「今年度の振り返り」としてまずお伝え致しますのは、これまで取り組んできました行政との『保育懇談会』や秋田市市議会議員厚生委員との『懇談会』、秋田市議会議員会派と『意見交換会』についてであります。これらの取り組みは今年度も実施すべく検討・協議を行いながら進めてまいりました。しかしながら、これまでの進め方では当協議会からの意見や要望等が、秋田市の進めていく施策や予算確保等に反映出来ていないという現状がある事から、次年度はその進め方なども検討し、今後の取り組みに繋げて行きたいと思っております。具体的に秋田市行政との話し合いについては、新たな年度になりあまり時間を空けない形で実施する事により、翌年度に向けた施策へ反映して行けるよう話し合いの場を設けていく事としております。また秋田市議会議員との意見交換会につきましても、今年度はこれまでの会派の他、新たな会派との意見交換会も実施致しました。この取り組みを踏まえて次年度には、秋田市議会議員とどのような関わりをもって市政へ私共の意見や要望などを届けていただくかを更に検討し取組んで行く必要があると考えております。この他、施設長部会内に委員会活動を展開し、施設長としての資質向上に関する研修の実施、当会の活動等を多くの方へ知っていただく為の情報公開、子育てイベントへの協力や親子で楽しめるイベントの開催など「一人一役」で取り組みました。こうした活動は次年度におきましても継続して実施していきたいと考えております。

今年度は「新型コロナウイルス感染症」への対応が5類型移行により変更され、それに伴い会員各施設におかれましても様々な取り組みで新たな保育の進め方を協議し実践されてこられたのではないかと思います。そのような保育実践を自園においても展開していこうと考えていた矢先、諸事情により急遽【秋田市保育協議会会長代行】を引き受ける事となりました。この任を引き受ける事に関しましては、本当に悩み考えた部分もありましたが、多くの皆様より励ましとお力添えのお声がけをいただき決意した次第です。「秋田市保育協議会」の活動や取り組みが会員皆様のご理解とご協力を賜りながら着実に進められていく事で、秋田市で成長していく子供達やその保護者、そして保育現場で頑張る保育関係者、皆様すべての「笑顔」を増やしていく事が出来ればと考えております。どうか宜しくお願い致します。

私の施設においても「コロナ禍」で培った感染症対策を様々な活動の対応に組み込みつつ、子供

達が豊かな経験を積み重ねていく事が出来ますように、また保護者の皆様と保育者がお子さんの成長を共に喜び、育児を楽しんでいく事が出来ますように全職員で話し合いながら様々な活動の計画・実施を進めてまいりました。そうした活動実施後の感想等では、集団における不安等のご意見もございましたが、それ以上に皆で楽しむ事が出来たことに対する喜びのコメントを本当に沢山いただく事が出来まして、やはり、人と人とが関わる時は、面と向かいその場で関わり合うことの大切さを改めて感じる事が出来たように思います。

水害を経験して・・・

かわぐち保育園 佐藤美生子

昨年7月の豪雨災害の際には、大変ご心配をおかけしました。浸水後の園の様子に、ただただ呆然とし不安が重くのしかかるばかりの毎日でしたが、皆様に心を寄せていただき、また、寄り添っていただき、一人ではないことが本当に心強く、頑張ることが出来ました。本当にありがとうございました。

さて、自分の想像を超えた水害。日頃避難訓練をし、非常事態には備えている「つもり」でした。でもやはり、どこか火災、地震、津波というところに意識が置かれ、『水害』への備え、知識は他の災害よりも薄かったように今思います。津波、洪水を想定した訓練はしておりましたので、その経験をもとに職員は当日の状況を判断し、自分たちで積極的に子ども達を守るべく2階へ移動し、保育を行ってくれました。保護者へも早めのお迎えにご協力を頂き、建物や物的被害はありましたが人的な被害がなかったことが何より幸いでした。

園舎は、玄関アプローチより4、5段ほど階段を上がってあるため、さすがに園舎内に約40cmほど水が入り込むことはまったくもって考えておりませんでした。保育教材もいくらかステージの上にあげたりしましたが大部分は移動せず、書類も鍵のかかった書庫など定位置に・・・しかし、すべて水没。棚類などなど、とにかく1階にあるもの全てが水に浸かったことでその後の使用は難しくなっていました。園再開のために、建物の復旧工事とその後のためにとにかく現状、状況を写真で記録に残す（今回は水害だったのでスケールを当てて写真に記録しました）、工事中の保育の場所、給食設備の工事、給食室復旧までの食事をどうするか…などなど様々に同時進行しなければならないことがたくさんでしたが、職員はもちろん、ご近所の方々、嘱託医の先生、また、いつもいろいろお願いしている業者さんや地域の小学校さんなどなど、「何かできることないか？」と声をかけてくださったり、家具を洗って、乾かし、園内が整うまで預かってくれたり、遊ぶ場を提供して下さったり。昨年は猛暑でしたので「暑いから道中気を付けて遊びにきてくださいね、待ってますから」そんな様々な温かな言葉をたくさんかけて頂きました。たくさんの方々が園を気にかけてくださり、本当にありがたい思いでいっぱいでした。考えなければならないこと、わからないことがたくさんで大変ではありましたが、人に恵まれた自園の水害。改めて人の温かさが身に染み、その大切さを身をもって感じた7月。大変でしたが得たもの、得られたこと、気づくこともたくさんありました。

災害は、いつ、誰のもとに起こるか分かりません。自分のところにも自分の想像以上の状況(災害)が起こりうるんだ、という意識を当たり前ですが持つこと、そして、常に、様々な状況を想定し、備えること、そして日頃の訓練の重要性を改めて学んだ災害となりました。



豪雨により様々なものが流れ
いつもとまったく違った場所に…
水って恐ろしい…

緊急的な災害対応について～水害を経験して～

社会福祉法人こぼと保育園
園長 今野 由貴子

R5.7.15（土）に発生した、大規模水害により保育園が床上浸水を経験したあとに職員と一緒に考え、確認した今後への備えについてお話ししたいと思います。

①判断は、迷ったら早めに実行!!…時間はすぐに過ぎていきます。

一斉メール配信のタイミングを見極める事で、次への対応にすすむ事ができました。

災害発生時は、状況の捉え方と現状に温度差があり、保護者が迎えに動き出すまでに時差が発生してしまう。(メール以外に電話連絡も必要)

②復旧に向けての保険への加入…入っていて良かったと実感。

大きなお金が必要になるので、備えとして重要性を感じました。川の氾濫だけでなく内水氾濫というものがあります。予期せぬ事態に向けての見直しも必要と感じました。

③徒歩で通勤可能な職員の確保

職員が帰宅困難者になる事も想定し、職員の確保と退勤させる判断

④他園との日頃からの連携

緊急事態発生に伴い、保育を再開させるために自園だけでは難しい細かい事があります。場所の確保 物の確保 人の確保 など。地域全体が被災する事も想定し、少し離れた園と連携できる関係があったらお互いがお手伝いできるのではないかと思います。

⑤おんぶ紐…緊急時にも備え、常時13～15本は確保しています。

保護者に外で引き渡す事もあり、おんぶ紐が活躍しました。

園舎の1F工事に伴い、工事現場を通ったり、非常階段を使用したりする中、抱っこ紐ではなく【おんぶ紐】を使用する事で事故ケガなく引き渡す事ができました。

⑥修理業者等に園舎が災害の被害に遭うかもしれないと事前に連絡を取る

事前に状況を伝える事により、早急に復旧対応に向かう事ができる。

⑦木製のものは、後日洗浄では使用不可!! ゴミ処理をどうするか? ゴミ処理業者への依頼。

ロッカーなど30kgを超える物でも水に浮遊する。水を吸って引出しが開かなくなる。

園内を片づけるために日頃から洗って使うものと捨てる物を分別し、どう片づけるかを話し合っておくとゴミ処理がスムーズに行える。

⑧ゴミ袋と雑巾タオルなどのストック (トイレトペーパー・ティッシュ・ペーパータオルも含み)

⑨長い洗浄用のホースとデッキブラシなど (ホームセンターで売り切れる場合あり)

⑩パソコン等の事務機器をどう守るか

(自園は事務室が2Fだったため、今回は被害なく業務再開はすぐにできた)

⑪写真・動画の撮影

様々な角度から被災状況がわかる物が申請に必要になります



被災して

みどり保育園 鷲尾道子

当園は、床下浸水でした。そこで言えるのは、災害があった時、外見の被害だけではなく、床下等の見えない部分が被災していないかを専門家の目で検証してもらうことがまずは大事だということです。私も、園周りの被害を確認した時、園庭のプランターや遊具が流されただけでなく、倉庫の中にまで泥が入っているのを見て、念のため業者さんに点検をしてもらい、床下浸水がわかったのです。

それからの保育の運営については、自治体とのやり取りなので、私からアドバイスできるようなことは何もありませんが、秋田市は基本的に、保育園は休園せずに運営継続すべしというスタンスなので、被災直後の休園はやむを得ないと思いますが、その後は保育を継続しなければならないということを念頭に入れておくべきでしょう。当園は床板をすべてはがし、床下の断熱材等を取り替える工事となりましたが、保育を継続するため、工事の区画を分け、工区中の部屋の子ども達を他の部屋へ移動させ合同保育するという形を取りました。それでも子どもたちの人数や活動の関係で、隣のコミュニティセンターの部屋を何日間か借りる必要がありましたが、借りるまでの手続きは決してスムーズなものではありませんでした。工事は2か月かかり、12月にやっと完了しました。もし被災し通常の保育ができなくなった時、どこで保育をすればいいのか。近隣の保育園や公民館、コミュニティセンター、お寺、学校等、事前に把握しておくことも大事かもしれませんが、その作業を我々施設が個々にすべきなのかについては疑問の余地があります。災害の規模がもっと大きかったらどうなるのでしょうか。これは保育園だけの問題ではないと思います。

もう一つ、心構えとして、当園は被災の規模が大きく、国庫補助金を活用することになりましたが、申請には、多くの文書・資料の作成、国の査定、追加や訂正文書の提出等、とにかく膨大な手間と時間がかかります。今後、申請の進め方が改善されるかもしれませんが、そのあたりのこともある程度の覚悟が必要だと思います。



(写真左：被災直後の園庭 写真右：床下復旧工事の様子)

秋田豪雨から保育園再開まで

社会福祉法人 大野保育園

園長 相場 靖子

7月15日は夕涼み会という園行事でしたが秋田市に大雨の予報が出ていたため延期することといたしました。そして当日、前日から降り続く雨が園周辺を水没させる勢いで降り続けていました。この日の保育活動は危険であると判断し、市役所との協議をした後、午前9時頃一斉送信や電話連絡で保護者にその旨を伝え、その日登園した全ての園児が10時半頃降園しました。16日、水嵩を増していった大雨も午後から上がり17日にはほとんど水は引いていました。その日は祝日でしたが、複数の職員が保育園再開に向けて、施設内の点検や保護者に明日の保育の連絡などを行いました。在園児の保護者にも園庭の清掃を手伝ってもらい、保育園の無事が確認できました。そして次の日から通常保育を行いました。

その後、防災庫に下水が入り込んでいたり床下点検口6か所に浸水し断熱の取り換え工事をしたりとあれから半年以上経ちますが大雨の被害はまだ続いています。

今回の大雨を経て、幸いだったことは、まず、大雨の警報が入った時点で、園行事を延期にしたことです。新型コロナウイルス感染症が5類になったことを受け今年からようやく保護者参加型の行事ができるようになりましたが、みんな心身共に健康である万全の状態で行いたいと日程を延ばすことにしました。それが、全員をはやく降園させることに繋がりました。次に、祝日明けから保育を再開できたことです。近隣に大きな被害があった中で通常保育が再開できたことはとても幸運でした。職員間で連携して役割を決めて円滑にお迎えの手配や業務再開に向けた準備ができました。

日々、洪水の避難確保計画やマニュアルの見直し、避難訓練の実施や防災マップの活用など行い、平成29年の秋田豪雨の経験が活かされていたように感じましたが、それを上回る昨年大雨には、心を痛めました。今後の保育園の事、子ども達などを思うと心配は尽きませんでした。たくさんの方々を支えられて、大野保育園は今日もたくさんのお子様を受け入れることが出来ています。今後もより一層、備品や避難ルート、緊急連絡先等の見直しや避難訓練は行っていかなければならないと強く思いました。

最後に、保育園に通う皆様や卒園児の皆様、保育協議会会員園の皆様そして近所の方々から業者様には大変気にかけていただきましたことに、心からの感謝を申し上げます。



秋田市保育協議会研修委員会 活動報告

研修委員会委員長 齋藤純子

新型コロナウイルスが5類になった今年度は感染対策をしながら、以前のような活動が可能かどうか考えることから始まりました。まず新メンバーで各会員よりアンケートをいただき計画を立てました。早めに取り掛かったかに見えましたが、会員のさまざまな意見を十分に吟味する時間もなく、切があることに追われながら2回の研修会を実行することができました。ご報告いたします。

【第1回施設長部会研修会】令和5年7月27日（木）

講演 「インターネットの健全利用について（低年齢化対応講座）」

講師 生涯学習センター「秋田県庁出前講座」 菊地 智 氏

内容抜粋) インターネットの利用が低年齢化している昨今、健全に利用するために子どもとの会話やコミュニケーションを大切に、ネットに子守りをさせることなく一緒に見る、見届けることの実行。

【第2回施設長部会研修会】令和5年10月30日（月）

講演 「地域で起こりうる異常気象に伴う河川災害について理解を深め防災意識を高める」

講師 国土交通省東北地方整備局 秋田河川国道事務所 専門調査官 名古屋剛 氏

内容抜粋) 河川の役割、気象と洪水、地形の歴史、被害を未然に防ぐ取り組みハザードマップの見方 マイタイムラインの作成

感想抜粋) 7月15日の秋田市の水害により床上床下浸水により大規模な被害にあった施設をはじめ、保護者や職員でも被災者が多くいることで、防災の意識が高まっていた。園では課題が多く、今後の安全管理、避難体制を考える良い機会になった。「早い判断の必要性」を第一に考えたい。

2回とも秋田県の機関を利用してできたことで素早く手続きが取れよかったですと思います。特に2回目の災害に関する研修はタイムリーに最も関心が高い内容だったので時期的に適切とのご意見をいただきました。今年度のご協力ありがとうございました。来年度も会員のニーズにこたえられるような研修を検討していきたいと思



秋田市子育て支援企画委員会まとめ

子育て支援企画委員長 山田隆一

○子育て応援団すこやかあきた2023

令和5年7月29日、30日、県立武道館においてABS秋田放送主催の「子育て応援団すこやかあきた2023」が、秋田県保育協議会ほか多数企業の後援により開催されました。4年ぶりの開催に伴い、関係機関の代表者が集まり3回の実務者会議が行われました。新型コロナウイルス感染症対策の見直しがされたものの、多くの集客が見込まれるため、他県のテレビ局主催で開催されたイベントの結果等について、実務者会議での意見と要望を行い、出来得る対策を講じて開催することに協力してきました。

この2日間の参加者は宮城県や山形県等の他県における集客状況と比較すると、秋田県の入場者数をはるかに超えており、事前のテレビコマーシャルを観るなどして楽しみにしていたことがうかがわれます。7月30日のステージでは、市内各施設から男性保育士9名が「野菜レンジャー」を演じ、大いに会場を盛り上げてくれました。昨年は他県における不適切保育等がマスコミで報道され、驚きとともに心を痛めたものです。秋田県では男性保育士がこんなに頑張っていることをアピールする機会にもなっていると思います。委員会所属の各施設長は遊びのゾーンを担い各園から持ち寄った遊具類を揃え、合間に訪れた多数の親子に遊びの場を提供し、一緒になって楽しいひと時を過ごすことにつながりました。各園から提供されたキャラクター入りのペープサートはすべてプレゼントに活用させていただきました。

○親子で遊ぼう

令和5年11月11日、秋田市遊学舎において開催しました。秋田市広報に掲載し、ポスターを秋田県児童館、市内各地区市民サービスセンター含む6か所と拠点センターアルヴェ及びフォンテの子育て広場に掲出依頼を行いPRに努めました。在宅で子育て中の親子を対象にし、参加者は多くはなかったものの、アンパンマン体操、おもちゃでの遊び、大型絵本の読み聞かせ、離乳食や育児相談、入所の案内を行いました。参加者からのアンケートには、「子どもが楽しそうで良かった。」「次も是非参加したい。」「マジックをしっかり見たのは初めてであり、最後まで楽しめた。」「保育園やこども園への入園前に園での雰囲気味わうことが出来て良い機会になった。」「ダンスや絵本、マジックなど盛りだくさんで楽しかった。」等、子どもと一緒に保護者も楽しめたことが記されていました。お帰りの際には、絵本とペープサートをプレゼントし、約1時間半のイベントを終えました。今後とも、子育て支援企画委員会として協力しあいながら子育て支援の機会をつくっていきます。

保育運営委員会実績報告

保育運営委員委員長 福田恵嗣

役員から5月末に市議会議員厚生委員会との懇談会を開催していただきたいと伺い、委員とその準備に向けて動き出しました。議案の内容や厚生委員9名に案内を出すために、会長代行の協力のもと厚生委員長とアポを取りつつ、11月開催を予定に進めておりました。しかし厚生委員長とやり取りしている中で本議会に話が通るところまで進めて頂いたものの、厚生委員全体に開催情報や主旨等が伝わっていないことを知り、当会として懇談会を見送ることになりました。事前準備した資料は、後の「秋水会」と「自民党」との懇談会資料として一部掲載することができました。

懇談会開催までは達しなかったものの、委員全員が意見案をいくつも出し資料内容をまとめてくれたおかげで資料の作成ができました。この場をお借りして御礼申し上げます。来期も課題を早い段階で検討し、懇談会の準備を進めて行きたいと思っております。

令和6年度の活動予定（事業計画）

保育業界を取り巻く諸課題・解決に向けテーマを出し、各保育園の運営にあたり具体的に円滑な施策が打ち出せるような勉強会を開催したい。併せて、秋田市議会厚生委員と保育課題を共有するための合同研修会等に繋げることも早急に検討。保育運営に資するテーマとし、講師等についても検討していく。

広報委員会 今年度の振り返りと次年度の抱負

広報委員会委員長 佐川ひとみ

広報委員会の主な活動は秋田市保育協議会だよりの発行とホームページの改良の二つになっています。保育協議会だよりの発行については前期と後期各一回ずつです。

保育協議会だよりに関しては多くの先生にご協力をいただき本当にありがとうございました。保育協議会だよりの前期に関しては、例年通り「新施設長の紹介」で構成し発行いたしました。

後期に関しては、今年度は7月にあった大雨で被災された施設の園長先生に寄稿をお願いいたしました。施設長会議などで何度かお話をお聞きしておりますが、あらためて被災されたときに必要だったもの、備えておくべきことなどを寄稿していただきました。想像だけではなく当事者でなければ分からないことが伝わってきて、大変参考になる内容でした。

また、各委員会にも今年度の活動報告と次年度に向けた抱負を寄稿していただきました。

ホームページの改良に関しては、保育協議会だよりをクリックすると、いつでも誰でも閲覧できることに関して、個人情報保護法の観点からパスワードなどを掛ける必要があるのではないかと提議されました。このことに関しては引き続き話し合っていきたいと思います。

一年間を通して主な活動は例年とは変わらず、もう少し積極的な情報発信ができればよかったとの反省も出ました。

今後、さらに委員会内で話し合い広報委員会としてできることをまとめて実践して参ります。

来年度は、広報の情報発信の一つとして、地区ブロック行事に関して積極的にホームページにアップしその活動内容などを紹介してまいります。

また、広報だよりに関しても内容をより充実したものにしていきたいと考えております。

さらに、わかりづらかったリレーコラムについてお願いする園長先生に事前にご連絡をしてスムーズに寄稿していただけるよう工夫をして参ります。

広報委員会としてできる限り秋田市保育協議会の存在や活動を知っていただくことができるよう活動してまいります。

男性保育士部会事業報告

男性保育士部会 部会長 関 優太

今年度男性保育士部会では、秋田県立武道館で開催されたすこやか秋田もステージ担当にてコロナ禍以降、5年ぶりとなる野菜レンジャーを披露することができました。久しぶりのレンジャー披露ということで、意欲・やる気を示す部員もいれば、全く初めてという未経験の部員もいる中で、夜の勤務終わりや部会内での時間を使って練習に励みました。7月中旬頃に発生した大雨の影響で各園にも少なからず被害もありましたが、そのような中でも練習に来てくれる部員もありました。当日は今までで一番ステージを見に来てくださる観客も多く、大成功で納めることができました。また、このすこやか秋田のステージを見に来てくださったAABの方から野菜レンジャーへの取材の依頼もあり、短い期間での準備となりましたが、部会内で協力し合い、メディアを通して部会の活動を広めることができました。野菜レンジャー以外でも男性保育士部会では、季節や各年齢に合わせた遊びや園での行事などについて部会の活動内で話し合うことができました。他園の先生方の意見を参考に、自分のクラスの遊びの幅を広げたり、行事などで取り入れたりして、自分たちの保育を広げていきました。その結果を次の部会で話題に出し、再び部員内で話し合うことで保育の質の向上にも繋げることができました。9月には、河合体操教室から講師の先生をお招きし、「運動用具の使い方」の指導法や子どもの年齢・発達に合わせた運動遊びについて研修を受けることができました。講師の先生の指導の下、子どもたちの運動遊びについて多くの示唆を得ることができ、研修後の話し合いの場でも、「運動会前に子どもたちに分かりやすく伝えることができる。」「乳児クラス担任だが、遊びの中に取り入れていければ」という声が部員内からあがり、講師の先生の協力の下、研修開催の目的を達成することができました。

今年度は、コロナが規制解除となったおかげで再開することとなったイベントや部会内で初めて取り組む事などもあり、そのたびに部会内で話し合いを重ねていき、部員同士の結束をより強固にすることができました。来年度も、野菜レンジャー等を通して男性保育士部会の活動を広めつつ、部員同士で話し合い、保育の質の向上を目指して取り組んでいければと考えております。



すこやか秋田 野菜レンジャー

編集後記

今年度から新体制でスタートした広報委員会でしたが、活動内容は例年とほとんど変わらないものでした。そんな広報委員会の活動とは裏腹に大きな災害や気候変化があった今年度でした。

7月の大雨による甚大な被害を受けた園に関しては、その報告をお聞きするたびに想像もできないほどの大変さに胸を痛めました。どこかで、災害が他人事のように感じていた私にとっては衝撃的でした。何もお手伝いできずにただ「大変でしたね。」とお声を掛けることしかできない自分自身の無力さに申し訳ない気持ちでした。あらためて被災された施設の園長先生には心からお見舞い申し上げます。被災された園長先生方にはお忙しい中寄稿をいただきまして本当にありがとうございました。

会長代行上村先生はじめ委員長の先生にも感謝申し上げます。また、いつもサポートしていただいている事務局の方々、広報委員会の先生、一年間ありがとうございました。

広報委員会委員

委員長	佐川ひとみ	幼保連携型認定こども園ふじ
副委員長	上村清吾	あおぞら幼保連携型認定こども園
	駒野谷範子	わかこま第一保育園
委員	三浦司	秋田認定こども園
	相場靖子	大野保育園
	柴田香織	あきた中央こども園
	岡部亜希子	新波保育所
	津谷ゆき子	めぐみ保育園





令和6年3月 発行